

令和2年11月4日

保護者の皆様方へ

鹿児島県立国分高等学校
校長 山崎 巧

今冬のマスク着用等の感染防止に関するお願い

時下、ますます御清祥のことと存じます。

また平素より本校の教育活動に御理解・御協力を賜り深謝申し上げます。

お陰様をもちまして、夏期の授業措置で各学年の各教科の学習進度も概ね取り戻すことができまして、現在、授業や学校行事、課外活動も、感染防止に留意しながら、学校生活は日常に復しています。

この間、保護者の方々におかれましては、ご心労も多くあられたことと拝察申し上げます。いろいろな面で多大なご協力に重ねて感謝申し上げます。

さて、報道等でご承知のとおり、新型コロナウイルスの感染者については、今秋になり日本国内では増加傾向にあり、また世界ではさらに拡大し罹患者が4千万人を超過しています。今後、寒気が入りますとともに、日本と外国との渡航制限も緩和されますことから、予断のできない状況は続くかと存じます。文部科学省は9月当初に「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～学校の新しい生活様式」Ver4を発出し、本校としても職員間の研修も行いつつ、それを踏まえて対応しているところです。

学校では、折々の感染症対策ガイドラインを作成して、行事の変更や代替措置等で、学校生活を進めています。10月からは、暑さもやわらぎ熱中症の心配のないことから、また3年生の受験が始まっておりますことから、全校でマスク着用をはじめ、以下のように、感染防止を改めて指導しているところです。

- ① 学校生活では、特別な事情のない限りマスクを着用すること。
- ② 昼食時には対面での食事は控えること。
- ③ バスやJR等の公共交通機関を使用する通学については、マスクを必ず付けること。
- ④ バスや電車の中では、大声で会話は慎むこと。
- ⑤ 通学の前後には手洗い、または消毒をすること。

なお、マスク着用の効果については、日本でのスーパーコンピューターでの実証実験を初め、世界各国で研究成果が発表されており、大学入試共通テストをはじめ、上級学校入試や入社試験等でもマスク着用が義務づけられているところです。マスク着用の効果等は、別添資料をご参照いただければ幸甚です。

これからが本格的な受験シーズンとなります。学校を休校にしなければならない万一の場合は、受験生のためにできるだけ避けたいということや、3年生自身が体調管理をしておくことはもちろんですが、他学年からの影響もないように配慮してまいりたく存じます。なお、これまでと同様に、お子さんに発熱等の風邪症状がある場合は連絡していただければ、欠席扱いではなく出席停止とします。

さらに感染は誰にでも起こりうるものであり、感染者や医療に従事していただいている方々に不当な差別(言動やネットでの中傷)は、許されることではなく、このことは学校でも指導していきます。

ご家庭でも、そのことや今冬の学校でのマスク着用等の感染対策を含めまして、引き続き、ご留意いただければ幸甚に存じます。今後とも、御理解・御協力のほど、どうかよろしく申し上げます。

連絡先 教頭 (堂菌・山田島)
0995-46-0001

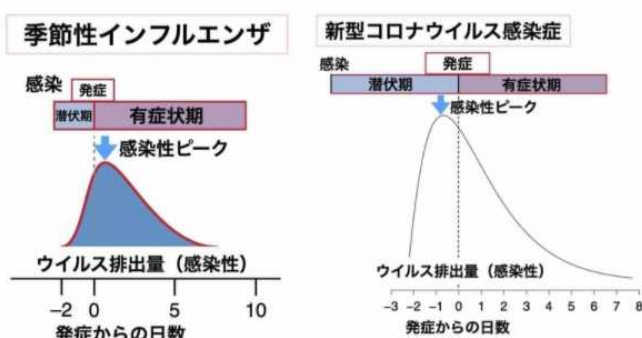
新型コロナ マスク着用による感染予防の研究成果

日本でのスパコン「富岳」での実証研究 理化学研究所, 2020年

理化学研究所研究チームは、世界最高を誇るスーパーコンピューター「富岳」を使い、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への効果的な対策を研究しています。コロナ対策ではかねてより、せきやくしゃみ、発声などで発生する飛沫と、これらの飛沫のうち小さいものであるエアロゾルによって、感染が広がる可能性が指摘されています。それによると、素材の異なるマスクの性能を比較した結果、不織布マスクも布マスクも、感染のリスク低減の効果を期待できることが分かりました。どちらも、排出ウイルスの8割程度を抑え込む飛沫の拡散防止の効果があり、新型コロナウイルスの対策には有効だということです。不織布マスクは飛沫の拡散防止効果はもっとも高いですが、直径20マイクロのエアロゾルについては、マスクと顔の隙間からの漏れが少なくないことが明らかになりました。

なぜ症状がない人もマスクを着けるべきなのか

インフルエンザなどの「発症した後から周囲に感染させる」呼吸器感染症とは異なり、新型コロナは発症する前の無症状のときから人にうつしていることが明らかになっています。



インフルエンザと新型コロナの発症前後の感染性の違い (https://doi.org/10.1038/s41591-020-0869-5より作成)

新型コロナウイルス感染症では、発症前に感染性のピークがあり、無症状の時期から周囲にうつしているというデータが集積してきました。

ほとんど無視できる量であれば良いのですが、新型コロナの感染伝播の総量を100とすると、発症前の無症状者からの伝播が45%、そして無症状のまま経過する無症候性感染者からの伝播が5%と、合計50%は無症状者からの伝播であることが分かっています。「咳で発生する飛沫の量と会話で発生する飛沫の量は大きくは変わらない」とする研究もあり、症状が

なくても会話などで新型コロナが伝播する可能性が示唆されます。これらの知見に基づき、現在WHO（世界保健機関）は「流行地では無症状者も公共交通機関利用時などではマスク着用」を推奨しています。日本でもご存知の通り5月4日から「新しい生活様式」として屋内では無症状者もマスクを着用することが推奨されています。

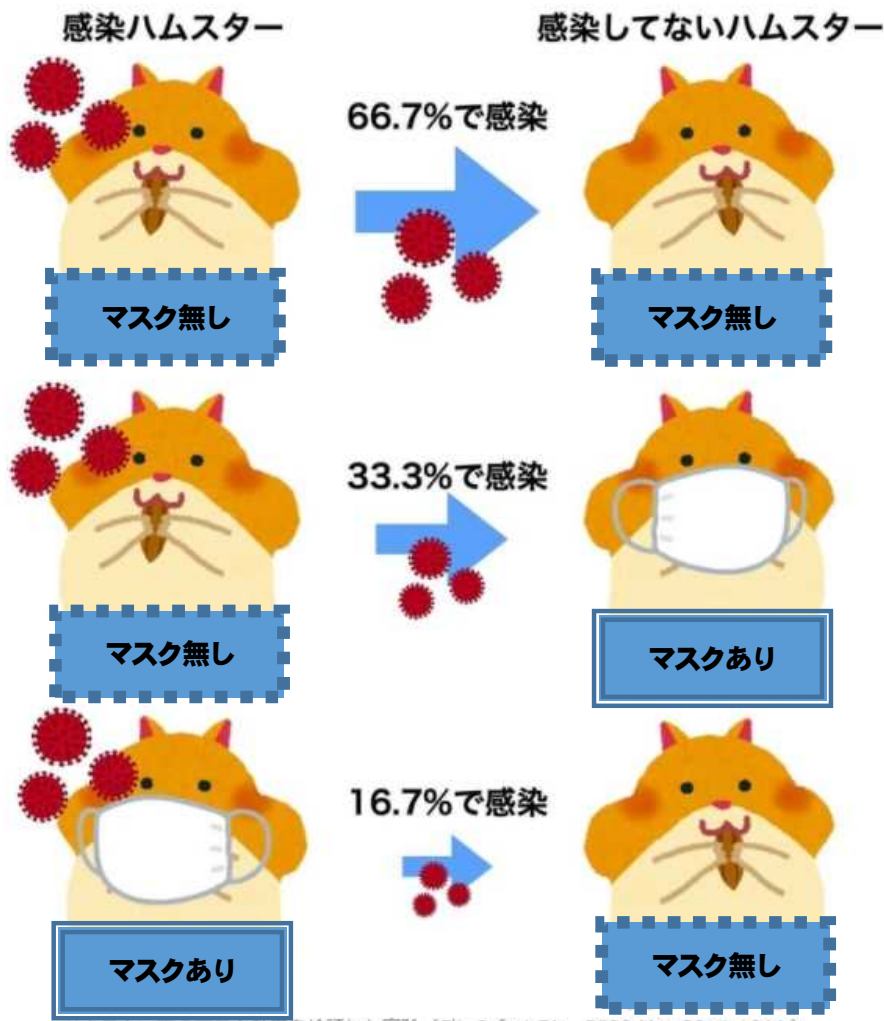
こうした「無症状の人も含めてマスクを着用する」という考え方をユニバーサルマスク (Universal Masking) と言いますが、この推奨は「発症前に感染性のピークがある」という事実と「マスクは会話などで発生する飛沫の拡散を減少させる」という事実から、新型コロナに対して予防効果があるとされた推奨です。この数ヶ月で徐々に知見が集まってきました。

発症前からマスク着用で家族内感染を減らしたという報告

中国の北京で124家族335人を対象としたコホート研究をご紹介します。家族内で1人感染者が出た場合に、他の家族に感染が起こった事例は22.3%でした。4つの家族に1つは家族内感染が起こっていることとなります。しかし、新型コロナを発症した人が、症状が出る前からマスクを着けていた場合は、家族への感染を79%減らしました (OR=0.21, 95% CI 0.06 to 0.79)。しかし、発症後にマスクを着けても家族への感染は減らなかったそうです。



マスクの効果を検証したハムスターの実験



ハムスターでのマスク効果を検証した実験 (Clin Infect Dis . 2020 May 30;ciaa644.)

ハムスターを使った実験も報告されています。

新型コロナウイルスを感染させたハムスターと、感染していないハムスターを直接接触できない同じ環境に入れて、感染が成立するかどうかを検証したのですが、どちらもマスクを使用していなければ15匹中10匹(66.7%)で感染が成立したのに対し、感染していないハムスターがマスクを着けていたら12匹中4匹(33.3%)、感染したハムスターがマスクを着けていたら12匹中2匹(12.7%)に感染が成立したということで、マスクに新型コロナウイルスの伝播の予防効果が示唆されました。特に感染した方がマスクを着けることで効果が強く現れます。

新型コロナに感染した美容師2人と139人の客



美容師2人が感染していてもマスク着用によって客は誰も感染しなかった (MMWR Morb Mortal Wkly Rep . 2020 Jul 17;69(28):930-932.)

アメリカのある美容室の事例も紹介致します。

ミズーリ州のスプリングフィールドにある美容院で働く2人の美容師が新型コロナに感染しました。この美容院では、スプリングフィールド市の推奨に基づき、ユニバーサルマスクを実行していました。この2人の美容師に濃厚接触したと考えられる139人の客は、それぞれ15分以上この美容師と濃厚暴露していたと考えられましたが、な

んと誰も新型コロナには感染していませんでした。ユニバーサルマスクの効果が分かるエピソードです。当初は疑問視する人も多かったユニバーサルマスクですが、実証研究により大きな効果があります。